

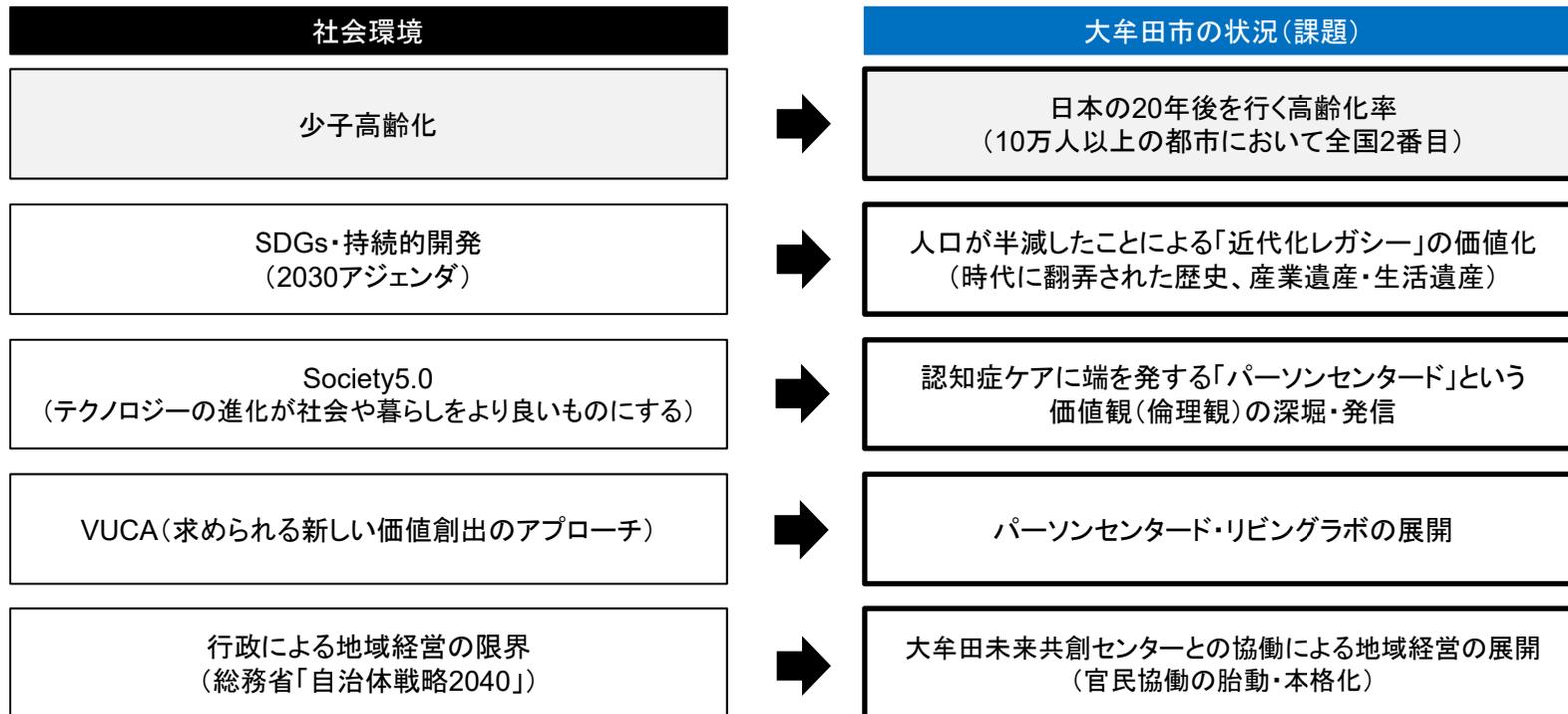
日本の20年先を行く10万人都市による
官民協働プラットフォームを活用した
「問い」「学び」「共創」の未来都市創造事業

自治体SDGsモデル事業

福岡県大牟田市

2019年5月10日

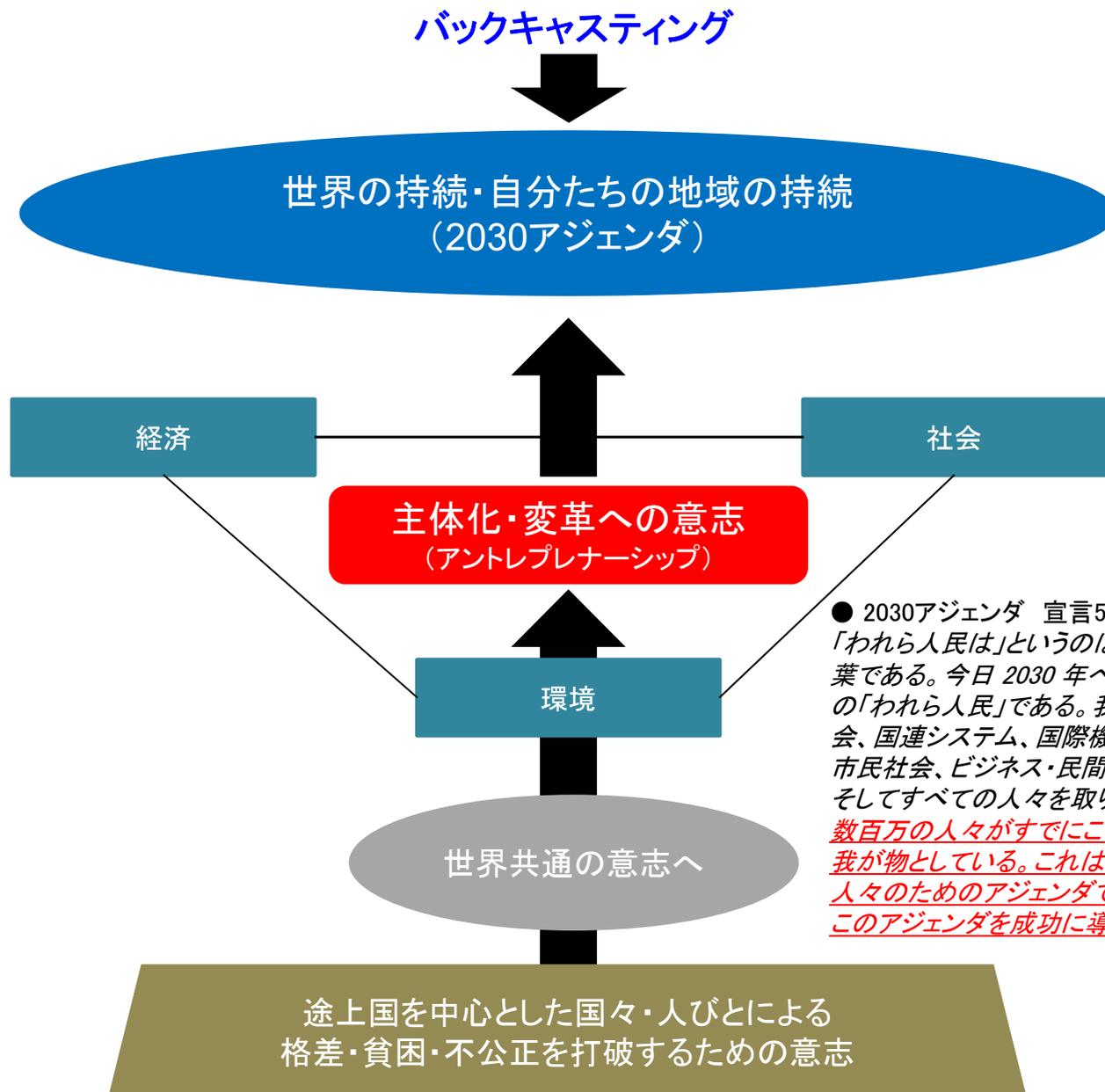
■提案の背景:社会背景・大牟田が取り組む理由



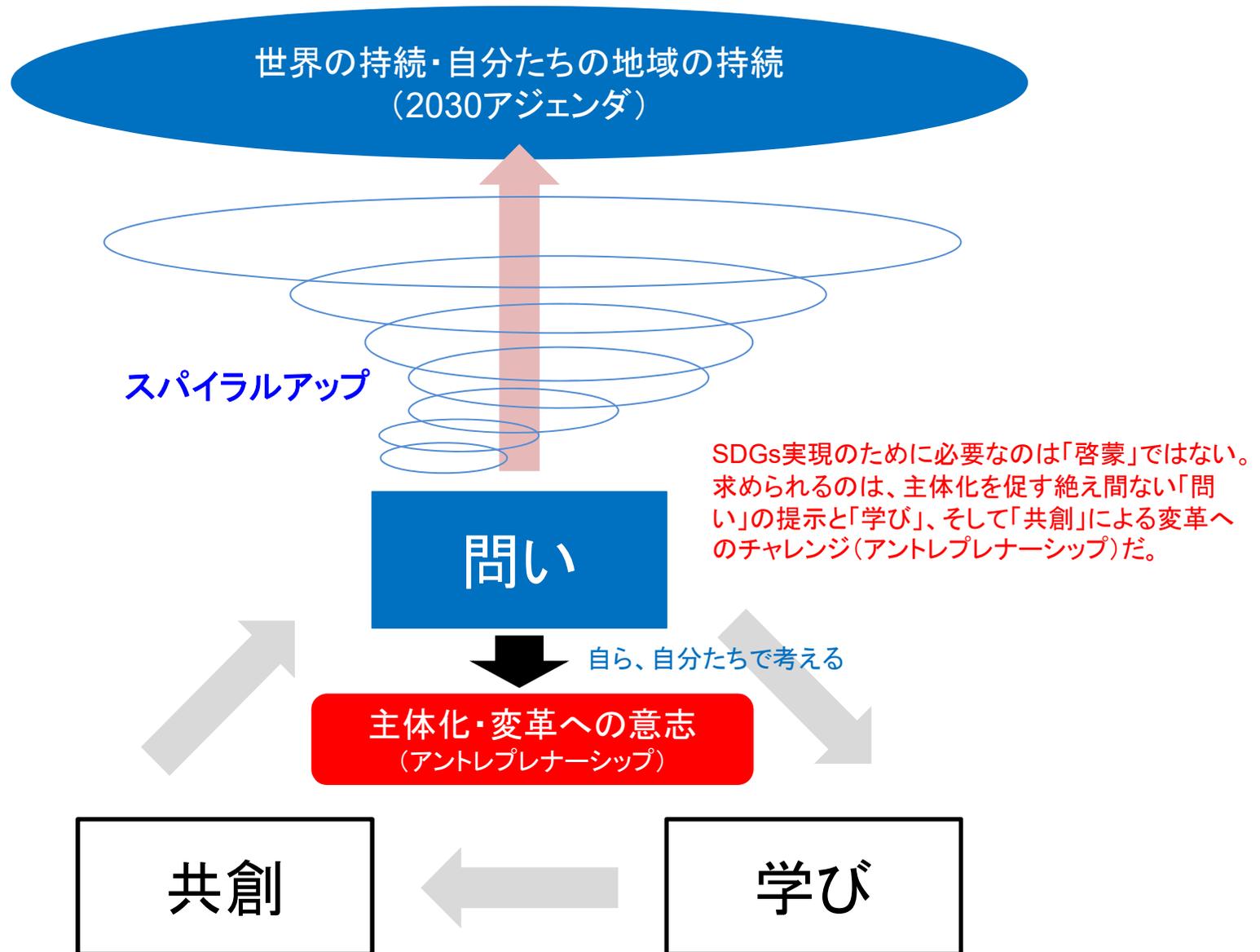
日本の20年先を行く10万人都市による
官民協働プラットフォームを活用した
「問い」「学び」「共創」の未来都市創造事業

クリエイティブで持続的な未来都市のモデル

■提案における核となるコンセプト: 主体化・アントレプレナーシップ



■提案における核となるコンセプト: 問い・学び・共創のサイクル



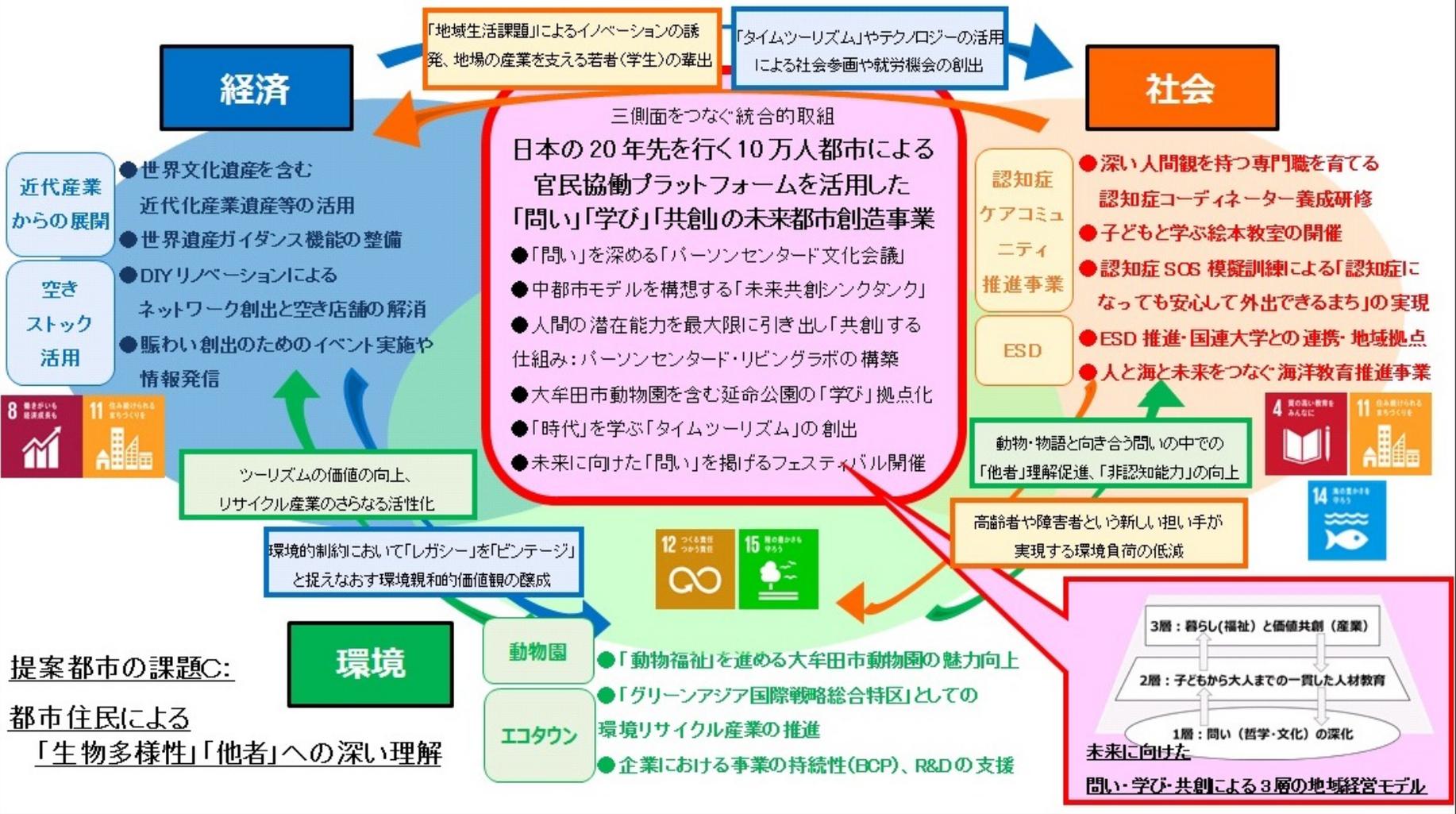
■モデル事業の全体像

事業名:日本の20年先を行く10万人都市による官民協働プラットフォームを活用した「問い」「学び」「共創」の未来都市創造事業 | 提案者名:福岡県大牟田市

取組内容の概要:SDGs 実現には人々の主体化を促す「問い」「学び」と「共創」による変革へのチャレンジが求められる。本市では、三側面の取組を活かし、官民協働プラットフォーム「大牟田未来共創センター」がハブとなり、未来に向けた「問い」を根源的に深め、世界へ発信する。そして「Society5.0」時代の全く新しい「パーソンセンタード」という人間観を軸とした共創の仕組みによって産業に活力を与え、豊かな「主観的世界観」を通した「学び」の拠点や「時代(パラダイム)」を学ぶ「タイムツーリズム」を創出する。

提案都市の課題A:「近代化レガシー」の価値化

提案都市の課題B: 少子高齢化への積極的対応



■大牟田未来共創センターの設立:ステークホルダーとの関係性・役割

問い

学び

共創

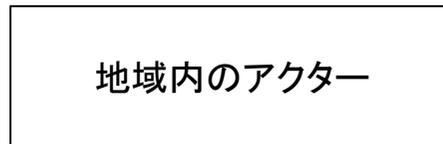
誰にとっても暮らしやすくワクワクするような
創造性にあふれる持続的なまち、大牟田



●行政との関係性
市も社員として参画し、500万円を出捐する予定



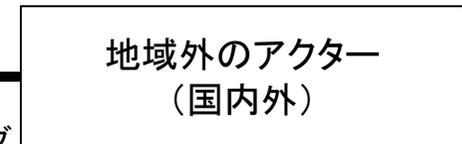
縦割りの打破(調整)、政策展開支援
ビジョンの共有



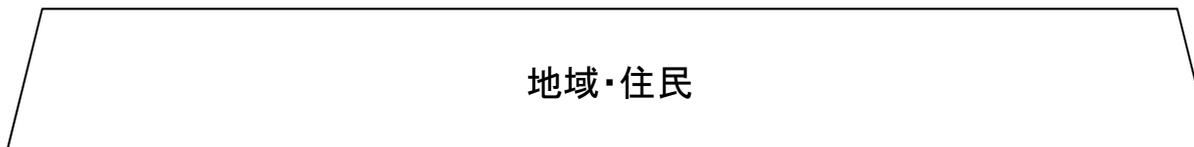
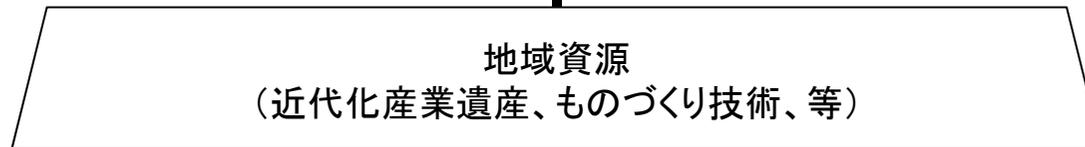
協働
マッチング



協働
マッチング



地域資源の価値を再構築
地域・住民との協働



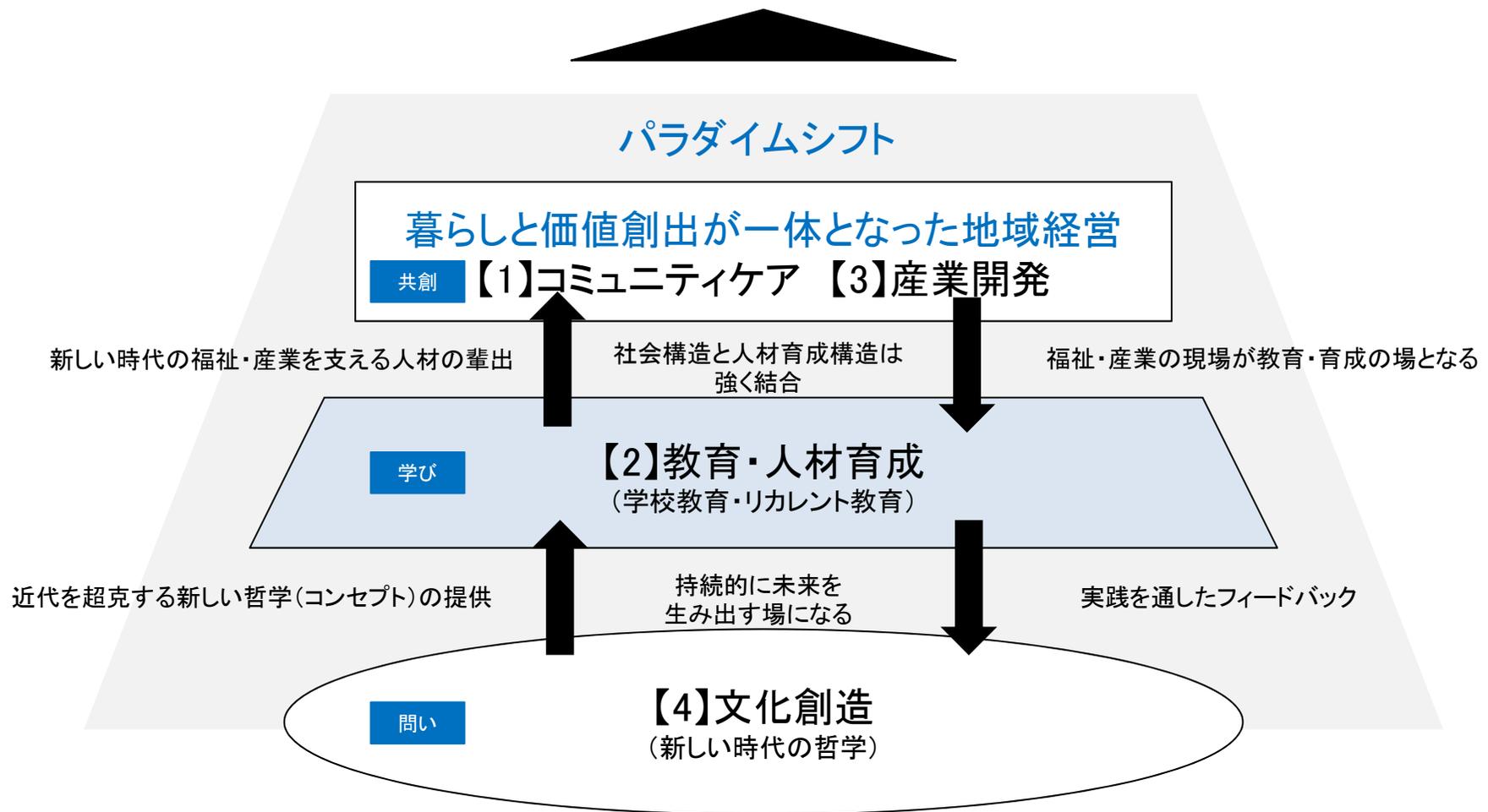
■大牟田未来共創センターの設立:事業的連関

問い

学び

共創

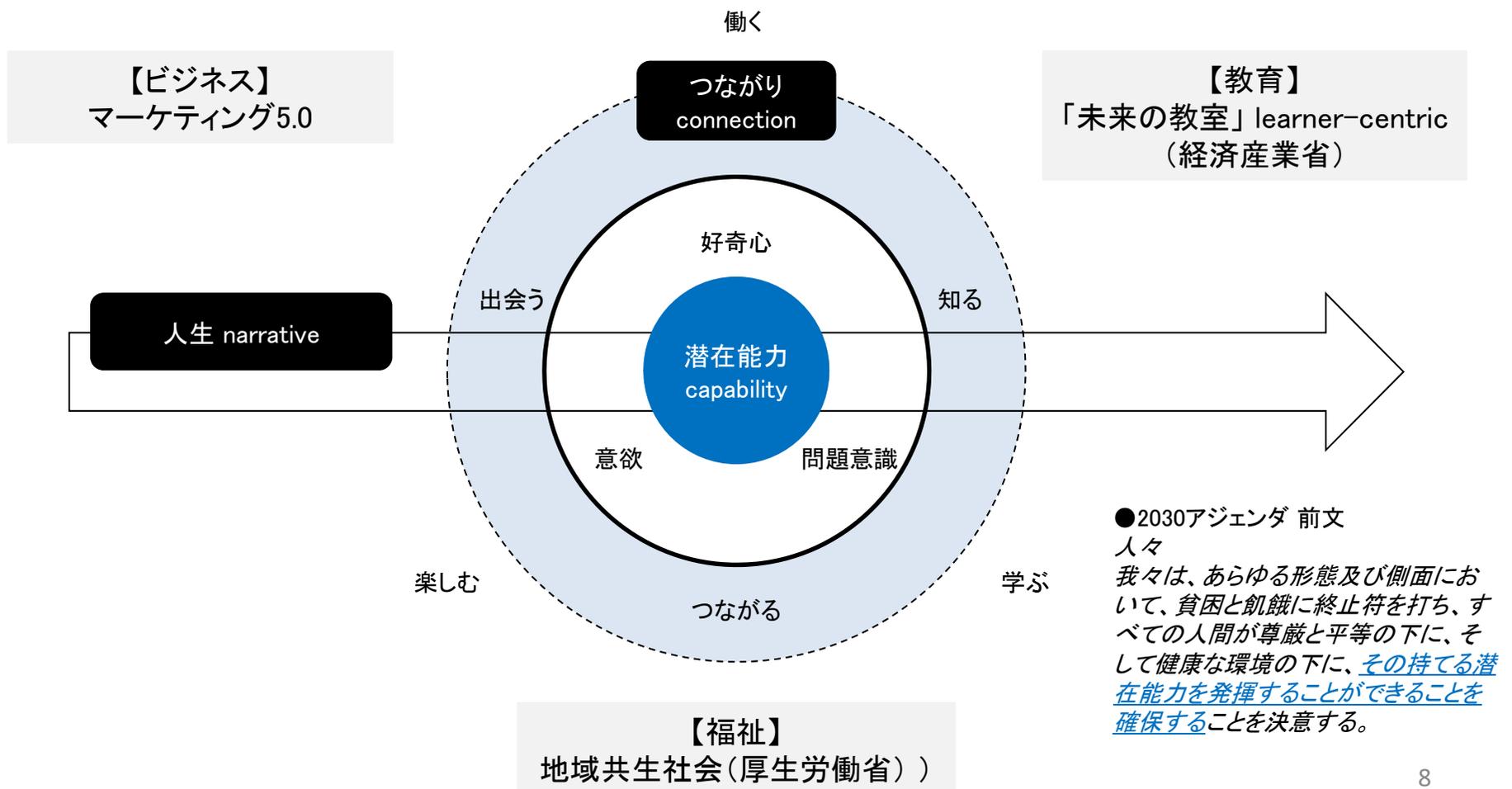
大牟田が、誰にとっても暮らしやすくワクワクするような、
創造性にあふれる持続的なまちとして、世界のハブとなり未来を提案し続ける
【超高齢化社会「以後」の社会モデルの提示】



■ パーソンセンタードとは

パーソンセンタード

生活者(パーソン)の暮らしを、独立した個人の暮らしとして捉えるのではなく、周りの家族や地域の人との繋がりと、その繋がりの中で捉え直されるケイパビリティ(潜在能力)に基づき、豊かで継続性を持ったナラティブ(物語)によって成り立っていると捉えるもの



■「パーソンセンタード文化会議」の開催

問い

学び

共創

●パーソンセンタード文化会議

日本のみならず世界的な視野でネットワークを構築し、各界の第一線の人たちに「問い」を投げかけ、大牟田が認知症ケアの領域で培ってきた新しい人間観「パーソンセンタード」を哲学的な視点から学際的に深掘る。具体的には、「人間とは?」「近代以後の世界は?」「テクノロジーと人間の違いとは?」「幸せとは?」と言った普遍的なテーマについて豊かな対話を行い、価値創出やテクノロジーの進化に対する倫理観の源泉となる「問い」を生み出し、次の時代に向けた世界のハブとして機能するように試みる。

パーソンセンタード文化会議
=「問い」が湧き出る泉
(新たな価値創出の鉱脈)

パーソンセンタード ダイアログ

- ・様々な有識者やプレイヤーと「パーソンセンタード」を共有し、対話を通して深める
- ・協働に向けた関係構築を進める

パーソンセンタード デザイン会議

- ・大牟田の実践(パーソンセンタード)の理論的基盤を探求
- ・「パーソンセンタードデザイン」の理論化・方法論化

パーソンセンタード テクノロジー会議

- ・「無意識のケア=well-being」を巡る対話を通して、技術の人間化の方向性を探る

■未来共創シンクタンクの設置

地方創生推進事業費補助金交付申請予定事業

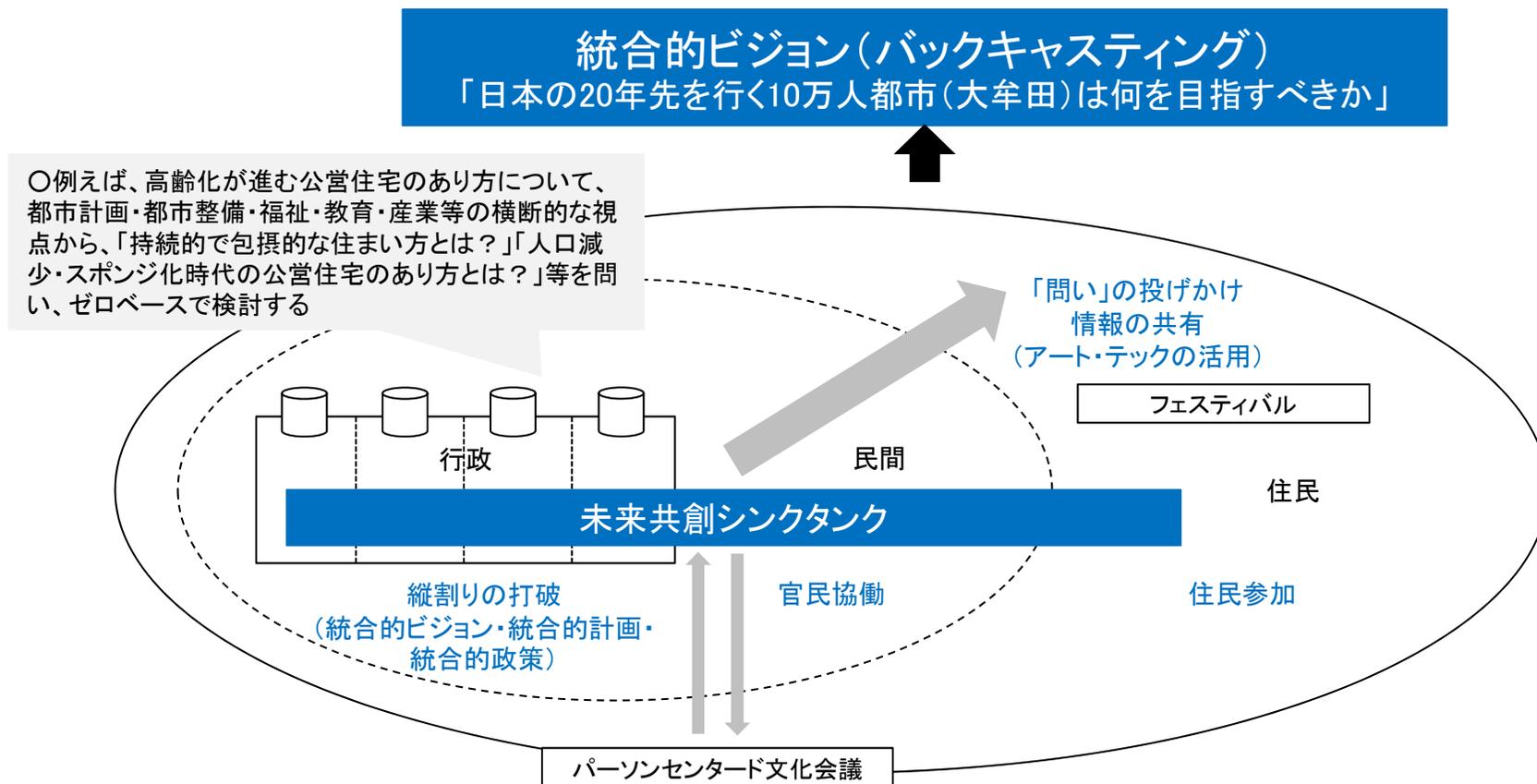
問い

学び

共創

●未来共創シンクタンク

「日本の20年先に行く10万人都市は何を目指すべきか」という「問い」を掲げ、それを特に若い世代を中心に、部門横断はもちろん、官民協働で検討し、政策に反映させるのみならず、テクノロジーも活用しながら内外に発信する「未来共創シンクタンク」を企画し、計画化する。具体的には、これまで縦割りによって別々に扱われてきた各種統計を「未来」に向けて改めて統合的・有機的に分析する。また、産業、教育、福祉、環境等の目線でそれぞれでの集積が試みられてきた「地域資源」「地域課題」についても、総合的な目線によって改めて見直し、生かす方法を構想する。それらの内容について、アート性のあるテクノロジーを活用して多世代に共有し、「問い」を持って共に考える機会を提供する。



■ パーソンセンタードリビングラボの構築:リビングラボとは・パーソンセンタード・リビングラボとは

地方創生推進事業費補助金交付申請予定事業

問い

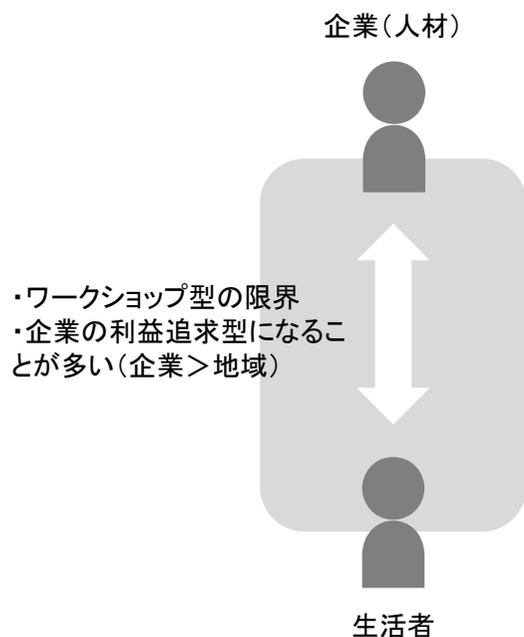
学び

共創

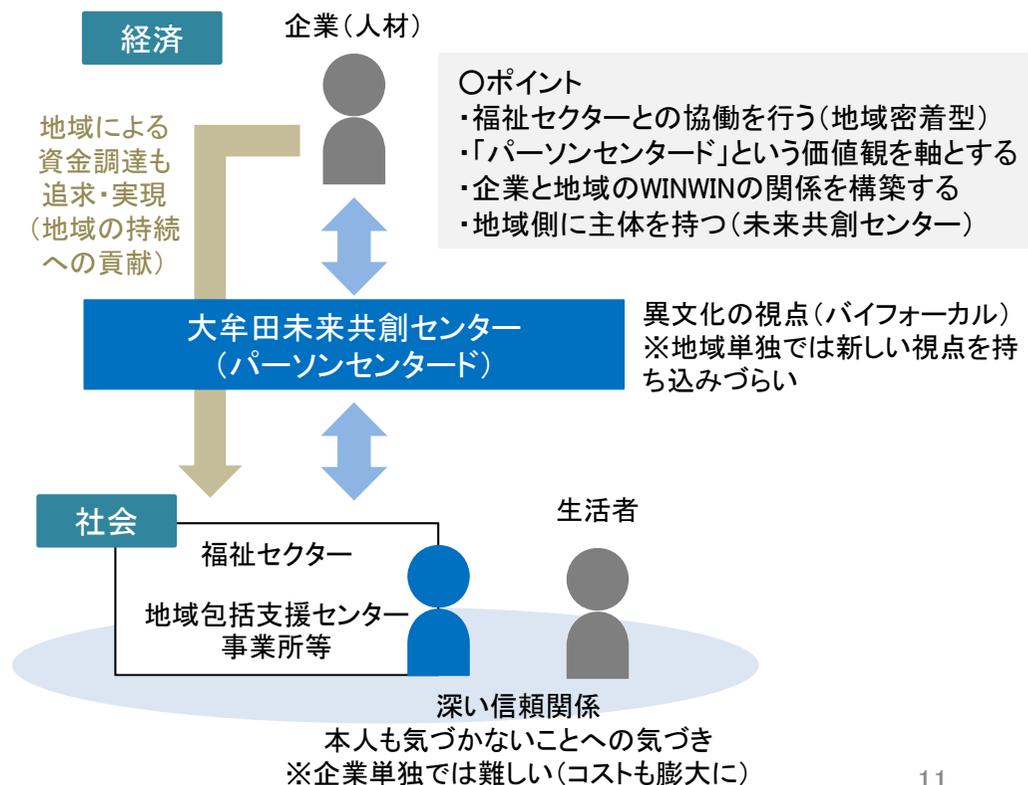
● パーソンセンタード・リビングラボ

本市が2018年2月から12月まで実施した、NTT西日本、NTTとの「自治体・地域住民・企業のサービス共創の仕組み『地域密着型リビングラボ』」の蓄積や、このリビングラボを舞台に2018年度に実施した経済産業省「未来の教室」事業をさらに発展させ、これまで世界的に展開されてきた「リビングラボ」をさらに進化させる「パーソンセンタード・リビングラボ」を構築する。具体的には、企業が住民(生活者)との距離感を近くすることで「真のニーズ」にめぐり逢うというアプローチから、認知症ケアで培ってきた「パーソンセンタード」という全く新しい人間観に基づいた「潜在能力」「つながり」「物語」に注目したサービスを住民や地域との共創を通して生み出すことへと転換する。

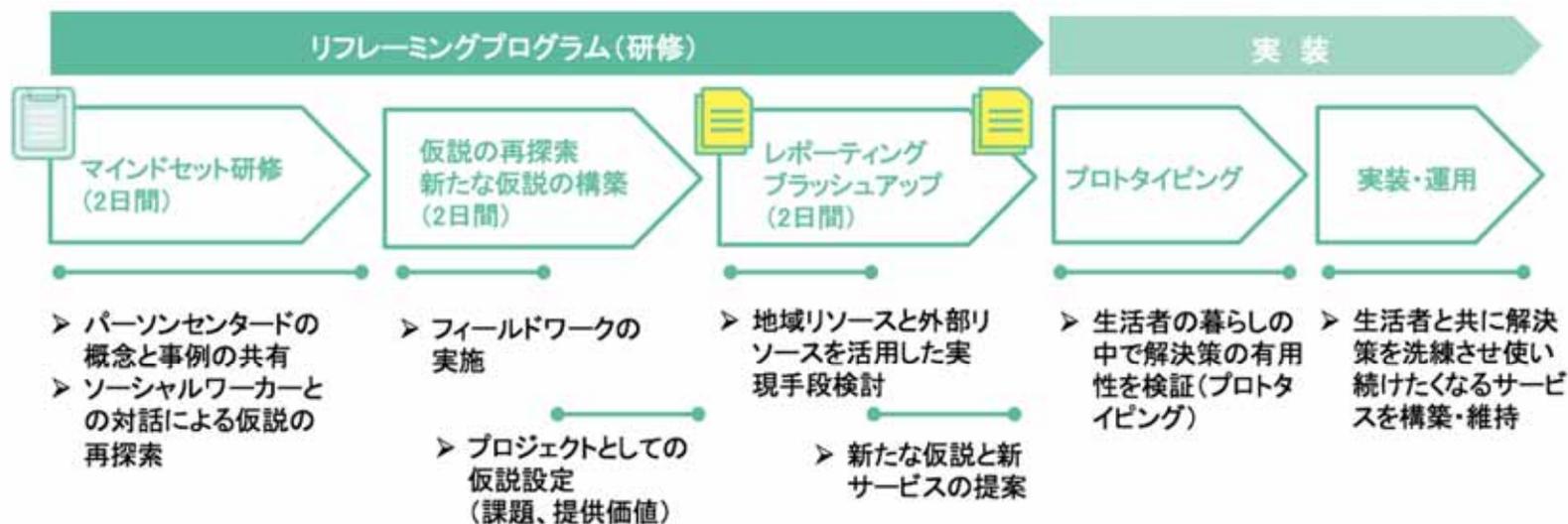
一般的なリビングラボ



パーソンセンタード・リビングラボ



参加企業のビジネスプランが180度転換→パーソンセンタード・リビングラボとして構築へ



マインドセット研修の様子 (1・2日目)

パーソンセンタードの概念と、事例の共有を行うほか、企業が開発テーマとしている内容に即したケースワークを実施し、パーソンセンタードなサービスの在り方について検討する。



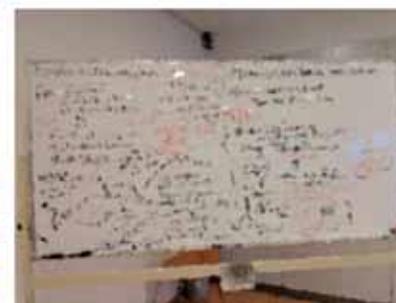
フィールドワークの様子 (3日目)

企業が開発テーマとしている内容に即したフィールドワークを実施し、生活者の視点でのパーソンセンタードなサービスの在り方について検討する。



仮説の再探索 新たな仮説の構築 (4日目)

ケースワークやフィールドワーク、インタビューなどを通して検討した内容を振り返り、企業が開発テーマとしている内容における仮説を再探索し、新たな仮説の構築を行う。



レポートイング・ブラッシュアップ (5・6日目)

新たな仮説に基づくサービスについて、行政やサービス現場関係者らとともに、そのサービスの価値や展開可能性について再検討を行う。

■延命公園「学びの拠点化」

地方創生推進事業費補助金交付申請予定事業

問い

学び

共創

●延命公園「学びの拠点化」

毎年25万人が訪れる「動物福祉」を生かした大牟田市動物園とそれを含む延命公園全体において、「生物多様性」についての身近で深い学びの機会を生み出すだけでなく、大牟田市動物園が目指してきた「他者をどう尊重し、どう関わるか」という今の時代に不可欠なテーマについて、実際に見て触れる体験、物語（他者の主観的な世界観への想像力）、自らの中の他者性を感じる運動（身体性）を通して、多面的な学ぶことができる「学びの拠点」を生み出す。

TECHNOLOGYを活用する例

自然・アスレチック

社会

屋外で季節や気候の変化を機敏に感じる心を育み、身体を動かすことから、人間の隠された可能性や自らに秘められた（内なる）他者性について体感的に学ぶ



●心臓ピクニック
普段意識することがない自分自身の鼓動を振動スピーカーを通じて体感し、自らの核にある「内なる他者」と向き合う。

ワークショップ「心臓ピクニック」（渡邊淳司、川口ゆい、坂倉杏介、安藤英由樹）

絵本ギャラリー

社会

動物園では学びきれない深い人間の「心」のあり方や日本の独自性、世界との共通性などについて疑似化された動物から学ぶ「絵本ギャラリー（併設予定）」との有機的な連携を推進。

人間（自分・身体性）
を通した他者理解

延命公園
＝学びの拠点

（統合的なコンセプト・企画の連携等）

物語を通した他者理解



大牟田市動物園

環境

特徴は、2016年に「エンリッチメント大賞」を受賞した「動物福祉」の考え方である。民間運営となった動物園では、利益優先となるあまり、ショーなどで動物が疲弊していくことがあるが、大牟田市動物園では、動物に配慮した飼育を行い、飼育員も含めて展示し、「動物福祉を伝える動物園」として集客につなげている。海外の動物園からの注目も高く、大牟田市動物園の取り組みを参考にする動きもある。動物園の動物だけでなく、地球に暮らす動物たちのことを考えるきっかけ作りまで目指している。

経済

経済

コンセプトの連携
周遊化

世界遺産
（産業遺産）

動物を通した他者理解

コンセプトの連携
周遊化

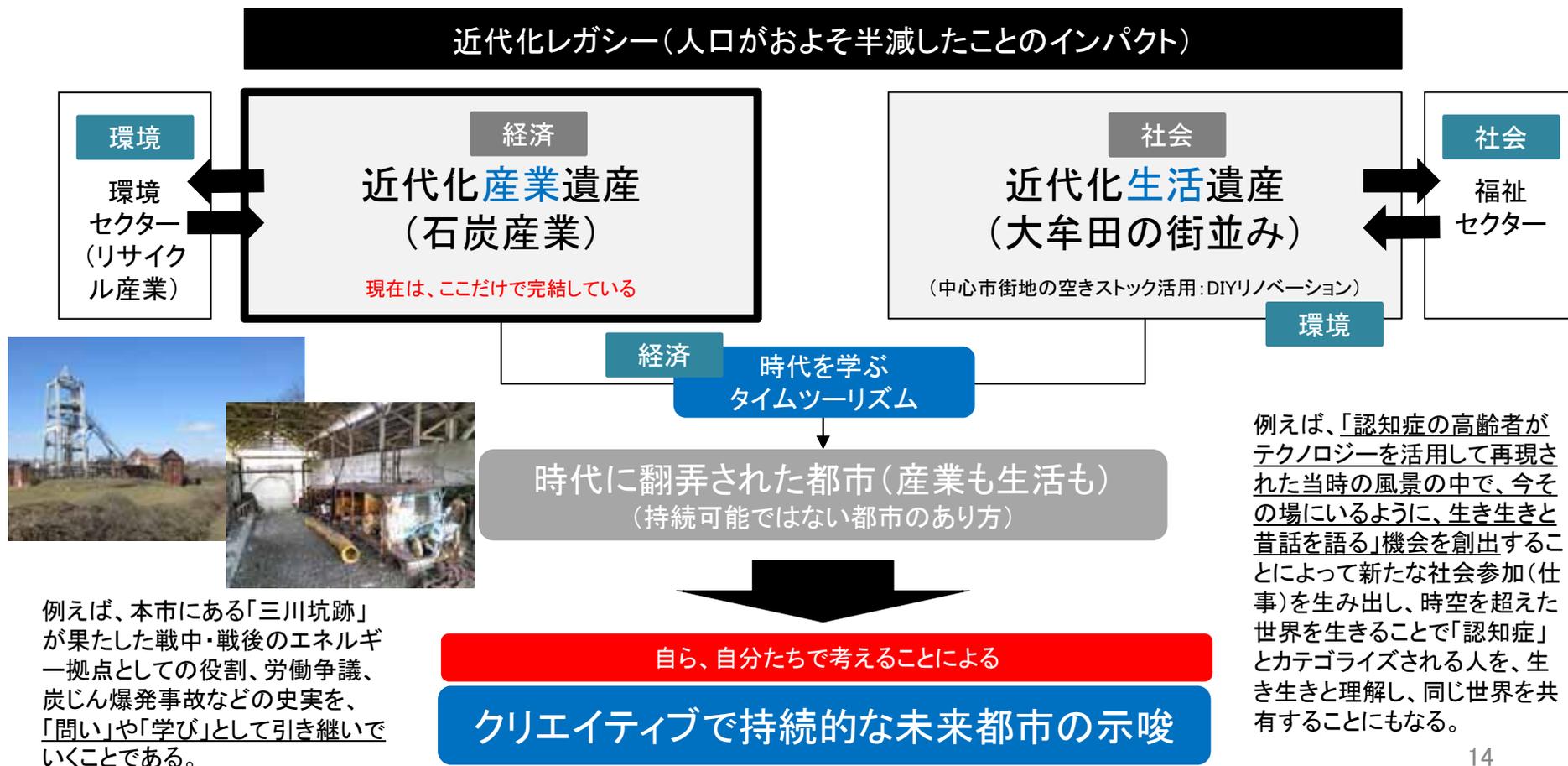
中心市街地
（生活遺産）

■時代を学ぶ「タイムツーリズム」の創出

地方創生推進事業費補助金交付申請予定事業 問い 学び 共創

●時代を学ぶ「タイムツーリズム」

日本のみならず、現在の世界を形作る「近代」の成り立ちを学ぶことができる「近代化産業遺産(含む世界遺産)」と、中心市街地の「空きストック」において「ビンテージ」をキーワードに展開される新しいまちづくり、世界に先駆けて日本が直面している「高齢化」のさらに20年先を走る大牟田市の状況を有機的に組み合わせ、全く新しい「時代(パラダイム)」を学ぶ「タイムツーリズム」を創出する。具体的には、まず「見る」だけでは伝わらない、「主観的世界(物語)」に注目し、「近代化産業遺産」が持つ本質的な「問い」を探り出す。



■「未来」に向けた「問い」を掲げる「フェスティバル」の開催

地方創生推進事業費補助金交付申請予定事業

問い

学び

共創

●フェスティバル

未来に向けた「問い」をテーマとして掲げ、豊かな表現を通して地域内外の人たちと共有し、多世代の好奇心に訴えかけ、さらに問いを深めていく「フェスティバル」を開催する。具体的には、「パーソンセンタード文化会議」、「未来共創シンクタンク」や「大牟田未来共創センター」が深めてきた「問い」を手掛かりとして、「学びの拠点」、商店街、各種公的な施設などを舞台に、アートやテクノロジーを積極的に活用し、「未来」について地域内外の子供や大人が「学ぶ」機会を創出する。



○介護フェスタ(2019年3月16日)

「動物×人間×福祉=?」

試行的な取り組み

ゲストスピーカー

- ・椎原春一氏(大牟田市動物園園長)
- ・大谷るみ子氏(認知症ライフサポート研究会)
- ・ドミニク・チェン氏(早稲田大学文化構想学部准教授)
- ・伊藤亜紗氏(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授)

全国的にも動物福祉として知名度の高い大牟田市動物園、そして同じく全国的に認知症ケアで知名度が高い大牟田の認知症ケアの取り組み。この一見関係のない2つのことを通して、今日における「福祉」の持つ可能性について発信します。

この2つのことから見えてくることは、「他者との関わり方」という大きなテーマです。認知症高齢者と動物が生物として一緒だ、という次元の話ではありません。私たち人間はこの世界において分かり得ないもの、整理し得ないものどう関わっていくのか。これまで私たち人間は、そうしたものを自らの枠で理解しようとし又、自らの力により制御しようとしてきましたが、今の世界を見渡すと、この考え方に限界が来ているように思えます。

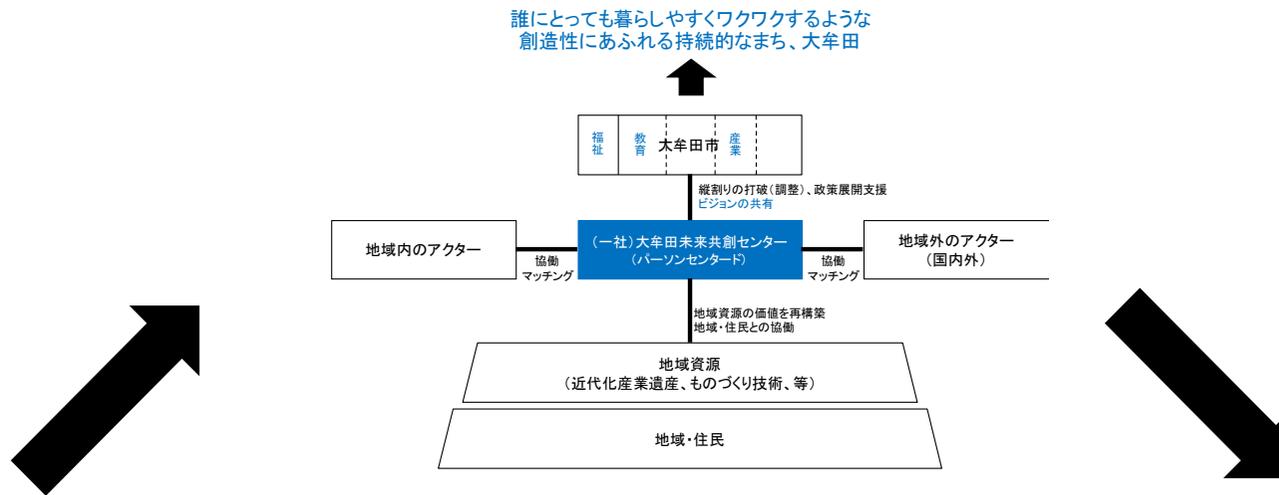
今の世界には新しい関わり方、新しい価値観が必要になっているのではないのでしょうか。その芽が大牟田という福祉の街にあると私たちは考えます。本トークイベントにおいて、ゲストの方々の取り組みに関するお話はもちろんですが、その領域を超えたところの本質的な価値、つまりは福祉という価値観に基づいた他者理解とは何かについて言及します。そして、その福祉の価値観が私たちの暮らしを変えていく可能性を持っていることを示すことを目指します。

■三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

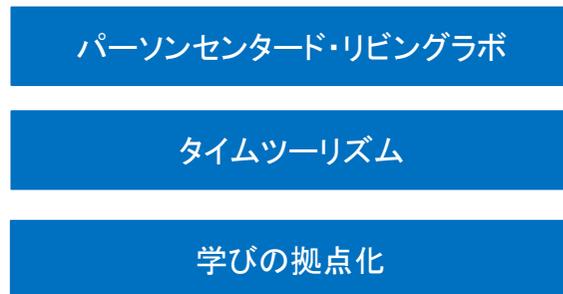


■ 自律的好循環

SDGs実現に向けた三側面をつなぐ取り組みの推進



仕組みと「問い」を生かした(地域への)外貨獲得



「問い」の提示による主体化・アントレプレナーシップの醸成

